

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	中央区
学 校 名	南小学校
学校長名	池田 勝一郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立南小学校では、第6学年 12名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科の正答率は、大阪府・全国平均を上回ることができなかったが、大阪府平均とはほぼ同じに値に到達している。国語科では、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」が低く、日本語を十分に習得できていないことが課題であると考え。教育課程上の学習と日本語指導の両輪で、学習の定着を図っていく必要がある。児童質問紙では、「学校に行くのが楽しい」「自分にはいいところがある」「いじめはどんな理由があってもいけない」に対しての肯定的回答が、大阪府・全国平均を大きく上回っている。本校のめざす学校像「関係諸機関のもつ力をフルに使って、子どもや家庭の自立を図る人権・福祉の充実した学校」を達成するための日々の実践による効果が表れていると考える。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕正答率が、大阪府平均とほぼ同じ値に達したことは大きな成果だと考える。継続した日本語指導とともに、ユニバーサルデザインによる環境整備や視覚的教材を取り入れた学習支援等によるものだと考えると考える。また、学力向上支援チーム事業による学習サポーターによる放課後学習での個別支援も大きな成果を上げている。しかし、支援が必要な児童に対して、指導者不足が生じていることが課題としてあげられる。

〔算数〕正答率が、大阪府平均とほぼ同じ値に達したことは大きな成果だと考える。国語科と同じように、継続した日本語指導により、学習課題を正確に掴むことができたことで、学習の理解を向上させていると考える。また、同じように学習サポーターが、児童の苦手な単元を一对一で学習支援することができるため、理解度も向上していると考え。

〔理科〕国語科・算数科と比較すると、大阪府・全国平均との差が少し見られる。学習言語理解の困難さが原因と考える。日常で使用する言語よりも習得が難しいとされる学習言語の習得をどのように指導するかが課題だと考える。

質問調査より

「学校に行くのが楽しい」「自分にはいいところがある」「いじめはどんな理由があってもいけない」に対しての肯定的回答が、大阪府・全国平均を大きく上回っている。児童が安心して生活できるような学校環境の構築を教職員一丸となって実践している。また、本校のめざす子ども像「自他相互にエンパワーし、ちがったままお互いのもつよさを生かしあって、新しいものや価値を生み出す子ども」を掲げ、地域・PTA・行政等と連携し、さまざまな実践に取り組んできた大きな成果であると考え。

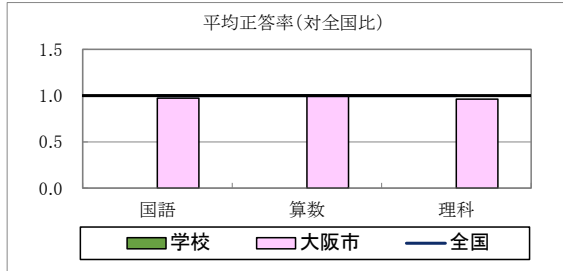
## 今後の取組(アクションプラン)

昨年度に引き続き、基本的・基礎的な知識を定着させることはとても重要だと考える。そのためには、学年ごとの指導が系統的で積み上げられるものが必要で持続可能でなければならない。また、日本語指導も同じように実践していく必要がある。まさに両輪で実践していくことが本校の学力向上に必須になっている。その土台として、この地域のストロングポイントでもある繁華街「大阪ミナミのまち」にあるあらゆる資源を活用した地域学習と国際色豊かな児童が多いことから国際理解教育に取り組み、人権教育を基盤に置いた多文化共生教育を充実していきたい。それによる自己肯定感・自尊感情の高まりから、安心・安全な学校づくりを実現させ、さらに、学力向上への足掛かりにしていきたい。

## 【 全体の概要 】

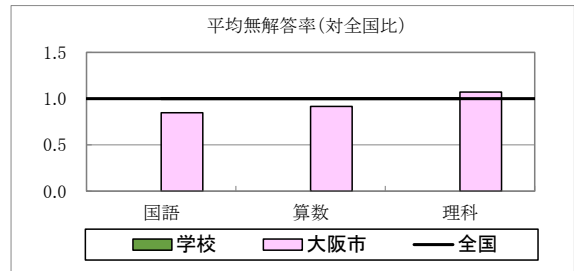
### 平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	-	-	-
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



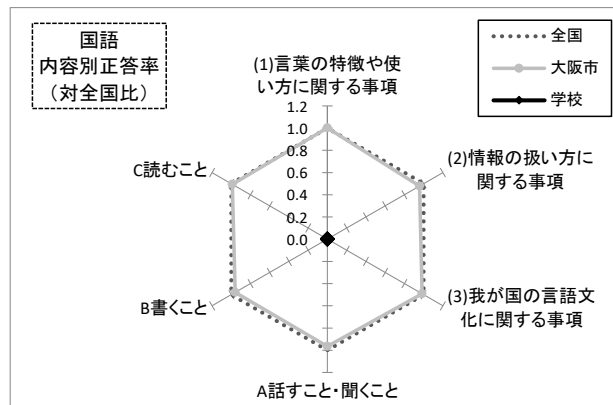
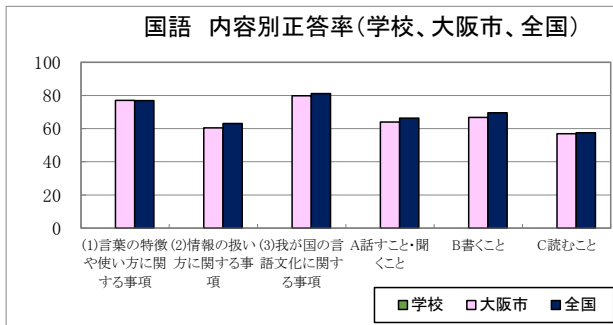
### 平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	-	-	-
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



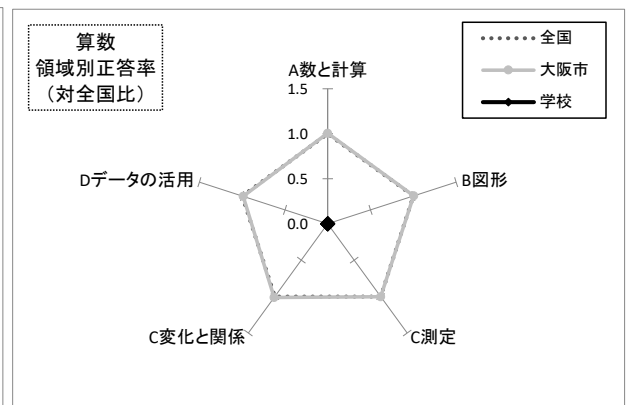
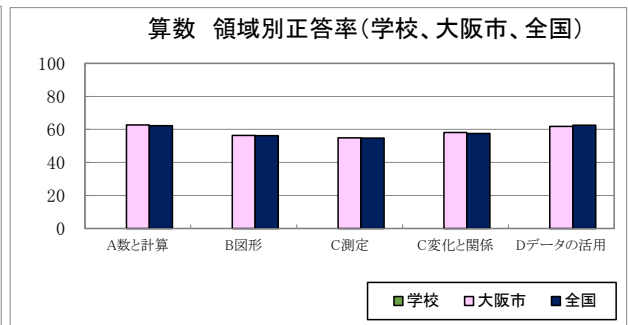
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	-	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	-	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	-	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	-	64.0	66.3
B 書くこと	3	-	66.7	69.5
C 読むこと	4	-	56.9	57.5



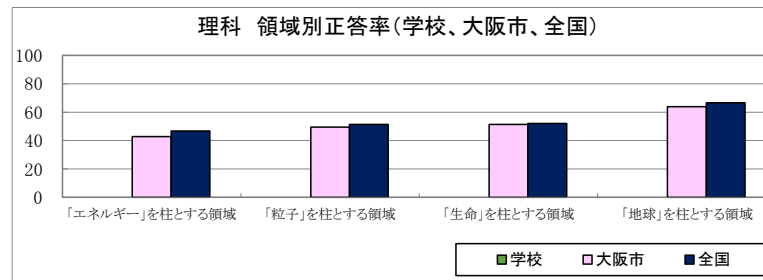
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	-	62.7	62.3
B 図形	4	-	56.4	56.2
C 測定	2	-	54.9	54.8
C 変化と関係	3	-	58.2	57.5
D データの活用	5	-	61.9	62.6

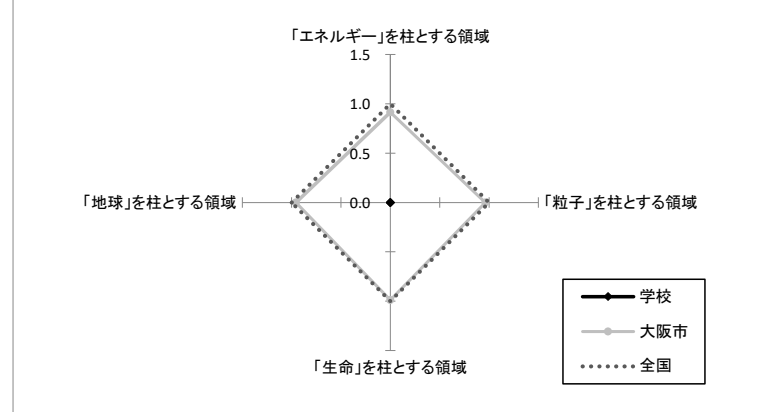


## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	-	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	-	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	-	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	-	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



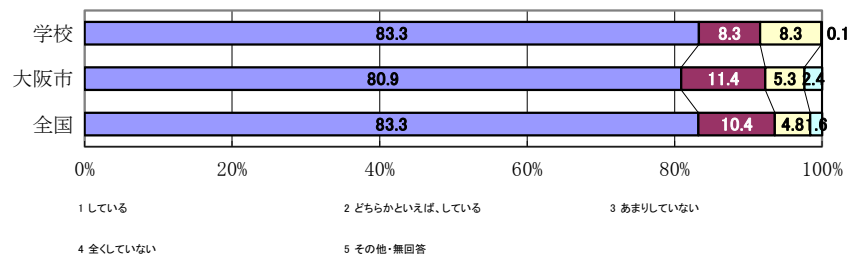
## 児童質問より

質問番号

質問事項

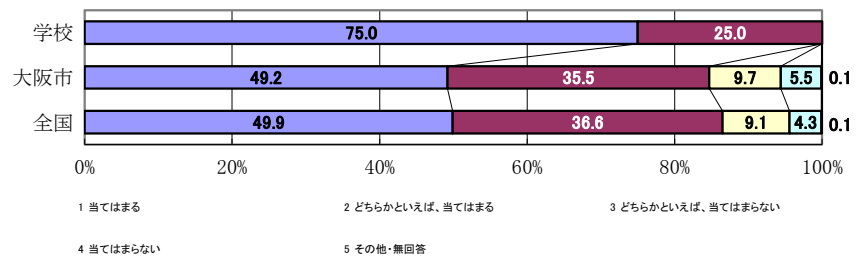
1

朝食を毎日食べていますか



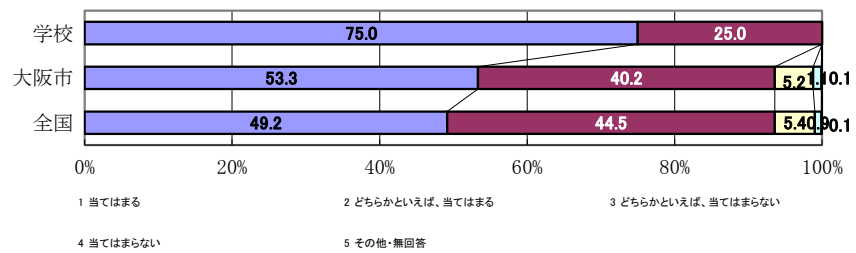
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



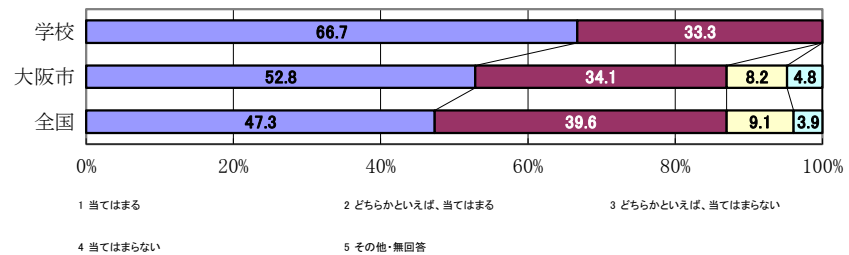
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



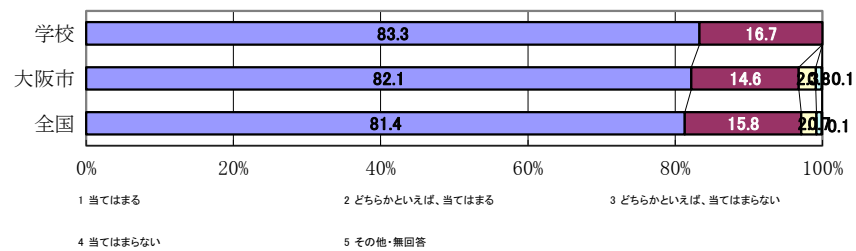
5

自分には、よいところがあると思いますか



9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



## 学校質問より

質問番号

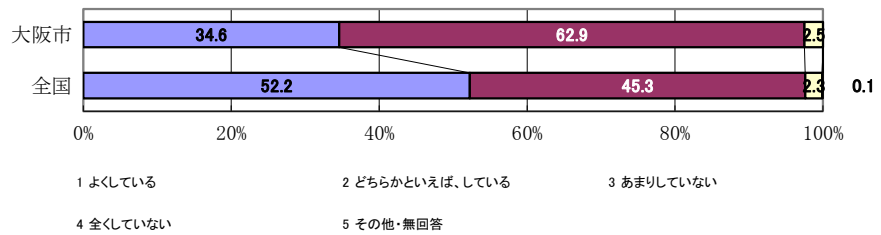
質問事項

16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

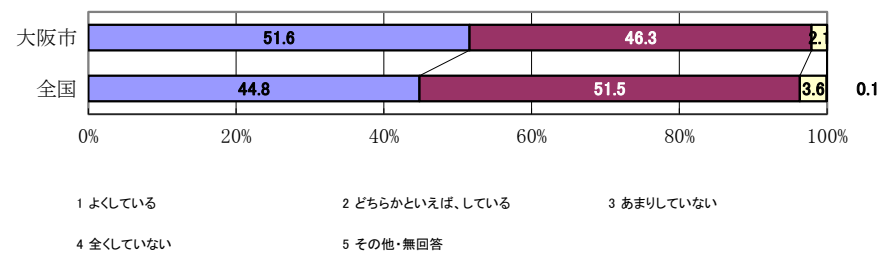
学校 「よくしている」を選択



17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

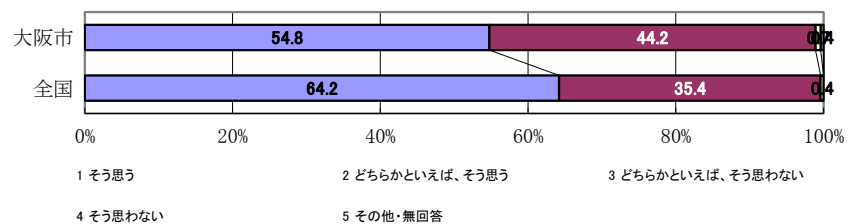
学校 「どちらかといえば、している」を選択



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

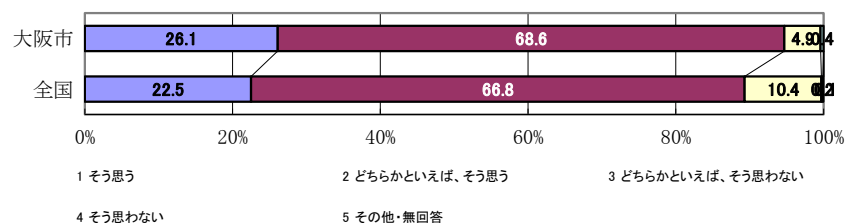
学校 「そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



75

コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか

学校 「コミュニティ・スクールの仕組みを活用して反映している」を選択

